

平成27年度衛生研究所研究課題外部専門家との意見交換結果報告書

1 意見交換の開催日

平成27年8月5日（水）

2 外部専門家名簿

所属・役職	氏名
国立病院機構三重病院臨床研究部長	谷口 清州
独立行政法人労働安全衛生総合研究所理事長	小川 康恭
千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授	白澤 浩

3 意見及び対応方針

次項のとおり

(1) 事前評価

研究課題番号	27-01
研究課題名	下痢性貝毒の機器分析法の開発と妥当性評価
研究期間	平成28年度～平成29年度
研究概要	健康危機事案への速やかな対応を可能とすることを目的として、マウス法に代わる下痢性貝毒の機器分析法を確立し、分析法の妥当性評価を行う。
主な意見	研究課題として有用な研究であり、確立しておくべき課題である。本研究により確立した試験法や結果を共有することにより、県内の他部局のみならず全国の衛生研究所等への普及、連携を図ることができる体制作りが大事である。
対応方針	関係機関等と連携をとりながら研究を実施し、分析法が確立した際には、試験法や結果を共有できるよう公表していきたい。

研究課題番号	27-04
研究課題名	流入下水中に存在するウイルスの動向把握
研究期間	平成28年度～平成31年度
研究概要	流入下水中のウイルスを検索し、動向を解析することでヒトのウイルス性疾患に関する知見を集め、予防啓発へつなげる。
主な意見	<p>国際空港、国際港を有し国内外から多数の人や物の流入がある本県において、下水中に存在する感染症の原因となるウイルスの監視体制構築を目指した本課題の重要性は高い。サンプル収集範囲が限られているが、より適切な地域の選定が望ましい。</p> <p>対象ウイルスを拡大するか、あるいは次世代シーケンサーで網羅的に解析できるとより良い成果が得られると考えられる。また、サーベイランスデータの解析結果を平易な情報に加工して発信する工夫にも期待したい。</p>
対応方針	<p>結果を集積し、サーベイランスの目的に合った採取地域の選定につなげていきたい。</p> <p>対象ウイルスの拡大や次世代シーケンサーによる解析は、実施に向けて検討している。また、得られた解析結果を県民や関係機関に分かりやすく情報発信ができるようデータの加工方法を検討していきたい。</p>

研究課題番号	27-09
研究課題名	海匝地域の健康格差の実態解明と縮小に向けた研究
研究期間	平成27年度～平成32年度
研究概要	千葉県内で最も平均寿命が短い地域である海匝地域において、食塩の過剰摂取、健診、特定保健指導の受診等に対する介入研究を継続するとともに、そのプロセス評価、アウトプット評価を行い、アウトカム評価に向けた体制の検討を進める。
主な意見	<p>50年前の日本に近い状況であることを想像させる地域なので、都会における生活及び環境状況のどの要素が主として健康改善面に効いたのかを検証できるという意味でも非常に重要な研究である。</p> <p>海匝地域の健康格差の問題点に対して継続的に介入していく必要性和意義は高く、活動を途切れなく継続することが効果を高める上で有用である。また、本研究の成果は他の自治体にとっても有用な方法であり、他の地域への波及効果及び介入の評価体制の検討を継続し、アウトカムが得られることを期待したい。</p>
対応方針	いただいた意見を踏まえて、研究を実施する。

(2) 事後評価

研究課題番号	22-02
研究課題名	離島・農村地域の効率的、効果的な生活習慣病対策の推進に関する研究
研究期間	平成21年度～平成26年度
研究概要	千葉県農村地域において平均寿命が短命である海匝地域の3市（銚子、旭、匝瑳）を対象に、短命な原因の探索を行い、中期的な対策としてアクションプランを策定、実施した。具体的には①減塩運動を始めとした生活習慣病予防のための食生活改善の推進、②がんの早期発見・早期治療のためのがん検診受診率向上に向けた活動、③メタボリックシンドローム減少のための特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上に向けた活動を実施した。
主な意見	受診率向上のための実践的な方法の効果を検証しており、様々な指標の改善がみられ、非常に有益な成果が出ている。この成果を踏まえて千葉県下の生活習慣病対策を推進し、成果の公開を図るとともに、効果の継続を検証して欲しい。
対応方針	研究成果を踏まえ、「27-09 海匝地域の健康格差の実態解明と縮小に向けた研究」として、重点課題に取り上げ、効果検証を継続する。また、健康ちば21（第2次）の推進を図るために、関係機関と連携して地域職域連携推進協議会等を通じて成果の公開を行うこととしている。